

大学の授業の基礎と探究

□ 授業方法の創造2 —Instructional Designによる授業設計

| 開催日 | 2011年10月17日(月) 13:30~15:00 | 場 所 | 川内北キャンパス
マルチメディア教育研究棟 M401

およそ 4,500 回、大学教員を 30 年務めるとして講義する回数です。落語家なら大師匠になっても不思議ではない回数ですが、大ベテランになっても、授業の組み立てには悩むのが大学教員ではないでしょうか。この際、単なる経験主義ではなく、授業設計理論にもとづいて授業を考えてみませんか。このセミナーは、大学生が物理学を題材に、これから、大学教員に就職する院生はもちろんのこと、授業に悩む新任教員、授業を見直してみたい中堅・ベテランの教員の方も参加し、自分の授業を組み立てるヒントを得ていただければ幸いです。

なお、受講者は、あらかじめテキスト『実践例に基づく大学での授業実施に関するキーワードズ~基礎物理学科目の授業設計と実践を通して』をお読みいただき、現在担当している自分の授業やこれからの授業についての課題を持ち寄って参加し、参加者との討論で深める形式を取ります。必要事項は、メールで連絡の外、ISTUを通して教材などを提供しますので、掲示に注意して下さい。

- コード: [L-04] ■対象: 院生△ 新任◎ 中堅・リーダー○ 職員△
- 講 師: 岩崎 信(元東北大学教育情報学教育部・研究部教授)
- 申込み締切: 2011年10月11日(火)

□ 授業方法の創造2—外国語教育の理論と実践

| 開催日 | 2011年10月28日(金) 13:30~15:00 | 場 所 | 川内北キャンパス
マルチメディア教育研究棟 M401

物理学者は専門家です。医師は専門家です。看護師も、ボイラー技師も。同様に外国語教師は外国語教育の専門家なはず。物理学者は物理学の研究成果を発表しています。医師や看護師やボイラー技師には国家試験があります。外国語教師にはそのようなものがない。外国語教育の専門家であるということはどういうことなのでしょう？

大学の外国語教育に求められることが変化しました。どの言語でもいいのですが、その言語を使って読み、書き、聞き、話すことができるようにすることが求められています。ちょっと前まではそうではなかった。

日本語を知らない人が日本語ができるようになるには専門的な能力が必要です。日本文学や日本語学の学者だからできるとか、自分が日本語ができればできるものではない。ほかのどの言語でも、ことは同じです。

人が学ぶということはどういうことなのだろう？教師はどういうふうにして人の学びに関わっていけるのだろう？教師の中で外国語教師に特に求められることは何なのだろう？理論的な話や、教室での教師の動き方といった具体的なことを組み合わせながら、一緒に1時間半、共に考える場を作っていきたいと思います。

- コード: [L-04] [S-01] ■対象: 院生○ 新任◎ 中堅・リーダー○ 職員△
- 講 師: 志柿 光浩(東北大学国際文化研究科教授)